

水の文化 里川 の



ミツカン水の文化センター

表紙上：東京の国立市、湧水からの流れが住宅街を駆け抜けている。
表紙下：生きた流れの持つ浄化力は、半端な衛生感を吹き飛ばす。水浴びの数m上流では、食器、鍋釜に始まり衣服の洗濯、自転車や家具まで洗う。包丁は研ぐし、オマルも洗う。
裏表紙上：東京は千駄木、谷根千工房（本文19～25p）の向かいにある須藤公園には滝がある。
裏表紙下：ノルウェーの港町オーレスンには、運河の舟運利用がまだ健在。フィヨルドの島から島へ渡るには、遠回りでも水面下数百mまで掘られたトンネルを車で抜けるか、個人の棧橋にも着けてくれる水上バスやマイボートを利用するかしかない。

構想



- 高橋 裕 「里川—これからの川と都市」
- 大熊 孝 「見試してつくる里川」
- 海道清信 「英国生まれのコンパクトシティ 日本に応用すると」
- 菅 豊 「都市の川を 現代のコモンズに」
- 森まゆみ・陣内秀信 「現代都市の里という居住地とは」
- 鷺谷いづみ 「生きものと人が川を合作する」
- 水の文化楽習実践取材 「川を里川化する水車の復元」
- 編集部 「里川の構想」
- 古賀邦雄 水の文化書誌「里川」

水の文化 October 2003 No. **15**

水の文化
2003
15

